

第2期ロジスティクス環境会議  
グリーンサプライチェーン推進委員会 第8回源流管理分科会

2007年9月21日(金) 16:00~18:00  
(社) 日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) チェックリストについて  
(1) 評価軸項目について

- (2) 参考情報について

- 2) 今後の進め方について

- 3) その他

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 第7回分科会以降の審議経過と本日の検討事項  
資料2-1 : グリーンロジスティクスチェックリスト (Ver. 0.5\_3)  
資料2-2 : チェック項目No1から21についての補足説明  
資料2-3 : 設置・導入型設問について  
資料3 : 参考情報について (修正案)  
資料4 : 今後の進め方について (案)  
資料5 : スケジュール (案)  
参考資料1 : チェックリストの構成  
(LEMSチェックリスト VS 6月21日終了時 VS Ver0.5\_3 対比表)  
参考資料2 : 第7回取引条件分科会 議事録

以 上

## 第7回分科会以降の審議経過と本日の検討事項

### 1. 第7回分科会での審議内容（確認）

- ・ 評価軸に関する全般的な事項についての検討

（主な結果）

- 評価軸の意味及びレベル差が伝わるような記載を行う
  - 文字数は45文字を一応の目安とするが、臨機応変に対応する。
  - 誘導したい事項がどうか、カテゴリーわけを行ったうえでそれに対応した評価軸を設ける
  - 数値を設定する場合は、4段階の中ですべて網羅する
  - 参考情報は一通り掲載する形で進める。
- ・ 少人数検討会の開催  
上記結果を受けて、評価軸項目修正案の作成（基本的には素案の意図を組んだ形での作成）

### 2. 第7回分科会以降

- 1) 第2回少人数検討会の開催（8月29日（水））

（主な結果）

- No1～21の修正素案作成

### 3. 本日の検討事項

- 1) 評価軸項目に関する検討

- ・ No1～21の素案検討
- ・ 設置、導入型設問（No50、69、71、72、73、74、79、80、81、83）
- ・ 設置、導入型と同系（No51）
- ・ その他（No30、31、32、37、38、20、21、22）

- 2) 参考情報について

以上

グリーンロジスティクスチェックリストVer. 0.5\_3

方	1.1	①	全社的な取り組み	グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備	番号	旧	新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等
										出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき	
針	1.1	①	全社的な取り組み	グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備	1			企業の環境方針、行動計画等の中に、ロジスティクス分野に関する方針・目標をトップがコミットメントし、策定している。	矢野	企業の環境方針を策定していない。	企業の環境方針は策定しているが、ロジスティクス分野に関する方針・目標はない。	企業の環境方針の中に、ロジスティクス分野に関する方針・目標を策定しているが、トップのコミットメントはない。	企業の環境方針の中に、ロジスティクス分野に関する方針・目標をトップがコミットメントし、策定している。	質	現状	・NECロジスティクス 2006年度環境報告書 ・キリンビール 2006年度環境報告書 ・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル
					1			企業の環境方針、行動計画等は、 <b>トップのコミットメントにより策定されている。</b>	修正案2	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、 <b>トップのコミットメントがない、もしくはコミットメントの有無が不明である。</b>	企業の環境方針、行動計画等は、 <b>トップのコミットメントにより策定されている。</b>	左記に加え、 <b>企業の環境方針については、社内のみならず社外へも周知している。</b>			・トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(P17~21)
					2			環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針・活動が策定・実施されている。	矢野	環境委員会や環境部門が存在せず、ロジスティクス分野における方針は存在しない。	環境委員会や環境部門が存在するが、ロジスティクス分野に関する方針は存在しない。	環境委員会や環境部門が存在し、ロジスティクス分野に関する方針は策定されているが、具体的な実施計画等にはリンクしていない。	環境委員会や環境部門において、ロジスティクス分野における方針、目標、重点施策を策定し、それに基づいた活動を実施している。	質	現状	・NECロジスティクス 2006年度環境報告書
					2			環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における <b>方針が策定</b> されている。		環境委員会や環境部門が存在せず、ロジスティクス分野における方針は存在しない。	環境委員会や環境部門は存在するが、ロジスティクス分野に関する方針は存在しない。	環境委員会や環境部門が存在し、ロジスティクス分野に関する方針は策定されているが、具体的な実施計画等にはリンクしていない。	環境委員会や環境部門において、ロジスティクス分野における方針、目標、重点施策を策定し、それに基づいた活動を実施している。			・事例1 (NECロジスティクス 2007年度環境報告書 P6)
					3			グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	矢野	グリーンロジスティクスを推進する体制が存在しない	環境部門の設置、もしくは環境担当者が選任されているのみで、各事業所を含めた推進体制構築までは至っていない	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ責任者が任命されている	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ責任者が任命されている。加えて、各段階で、定期的に会合が開催されている。	質	現状	・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル
					3			グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。		グリーンロジスティクスを推進する体制が存在しない。	環境部門の設置、もしくは環境担当者が選任されているのみで、各事業所を含めた推進体制構築までは至っていない。	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ責任者が任命されている。	左記に加え、各段階で、定期的に会合が開催されている。			・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P32~34)
					4			グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	矢野	グリーンロジスティクスを推進する計画は存在しない	グリーンロジスティクスを推進する計画は策定しているが、策定部門以外は把握していない	グリーンロジスティクスを推進する計画は策定しているが、策定部門及び責任者以外は把握していない	グリーンロジスティクスを推進する計画は策定し、全社的に周知徹底している	質	現状	・NECロジスティクス 2006年度環境報告書
					4			グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。		グリーンロジスティクス推進に向けての計画は存在しない	同左の計画は策定しているが、策定部門以外は把握していない	同左の計画は策定しているが、策定部門及び責任者以外は把握していない	同左の計画を策定し、全社的に周知徹底している			・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P20~21)
					5			社員へ環境に関連した教育訓練(人材育成)を行っている。	矢野	環境に関連した教育訓練は実施していない	環境部門、環境担当者については教育訓練を実施しているが、その他部門については実施していない。	全従業員を対象とした教育訓練は実施しているが、定期的かつ計画的なものではない。	環境に関する教育メニューを整理し、環境部門、環境担当者のみならず、全従業員を対象に計画的に教育訓練を実施している。	質	現状	・NECロジスティクス 2006年度環境報告書 ・グリーンロジスティクスエキスパート講座、グリーン物流基礎コース(JILS)
					5			グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。		グリーンロジスティクス推進のための教育訓練は実施していない	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練実施に向けて、前向きに検討している。	関係部門を対象とした教育訓練は実施しているが、定期的かつ計画的なものではない。	環境に関する教育メニューを整理し、 <b>関係部門に対し、定期的かつ計画的に教育訓練を実施している。</b>			・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P34~36) ・事例2 (NECロジスティクス 2007年度環境報告書) ・グリーンロジスティクスエキスパート講座、グリーン物流基礎コース(JILS)
6			海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。	矢野	海外については実施していない、あるいは実施有無含めて把握していない	海外拠点、国際物流で実施している環境対応活動を把握しているのみで、会社としての活動は行っていない	海外拠点、国際物流について、事業所ごとに環境対応を進めている	海外拠点、国際物流について、会社として統一的に環境対応を進めている	質	現状	・リコー 2006年度環境報告書					
6			海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。		海外については実施していない、あるいは実施有無含めて把握していない。	海外拠点、国際物流で実施している環境対応活動を把握しているのみで、会社としての活動は行っていない。	海外拠点、国際物流について、事業所ごとに環境対応を進めている。	海外拠点、国際物流について、会社として統一的に環境対応を進めている。			・事例3 (リコー 2006年度環境報告書)					

番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等
			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき	
8	ロジスティクス分野において、法令遵守(各種リサイクル法、過積載輸送の防止など)徹底に向けて取り組みをしている。	矢野	自社が遵守しなければならない法令が整理されていない、もしくは整理されているかどうか不明である。	法務部門、総務部門、環境部門等において、ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を整理しているが、該当する部門の従業員への教育は行っていない	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を従業員へ周知、実行している。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を従業員へ周知するとともに、定期的な内部監査等でチェックしている。	質	現状	・NECロジスティクス 2006年度環境報告書
7	ロジスティクス分野において、法令遵守(各種リサイクル法、過積載輸送の防止など)徹底に向けて取り組みをしている。		自社が遵守しなければならない法令が整理されていない、もしくは整理されているかどうか不明である。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を整理しているが、該当する部門の従業員への周知や教育は行っていない。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を従業員へ周知・教育を実施している。	左記に加えて、定期的な内部監査等でチェックしている。			・事例5 (NECロジスティクス 2007年度環境報告書)
9	ISO14000sを取得、あるいはそれに値する活動を実施している。	水頭	ISO14000sを取得する予定がない。	ISO14000sを取得予定はあるがまだ取得していない。	ISO14000sを取得しており、維持できている。	ISO14000sを取得しており、目標を達成できている。	質	現状	
8	ISO14000sを取得している(自己宣言含む)。		ISO14000sを知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	ISO14000sの取得に向けて、前向きに検討している。	一部の事業所でISO14000sを取得している。	全社でISO14000sを取得している。			・日本工業標準調査会 ホームページ <a href="http://www.jisc.go.jp/mss/ems-14001.html">http://www.jisc.go.jp/mss/ems-14001.html</a>
10	エコアクション21(環境省)を取得、あるいはそれに値する活動を実施している。	武藤(事務局)	実施体制が決定されていない(EMSへの取り組みの体制が決まっていない)	実施体制を決定しているが、「環境負荷の自己チェック」「環境への取組の自己チェック」に実施、チェック結果から環境方針・環境目標及び環境活動計画を策定のいずれかの段階で、取組の実施まで至っていない(環境への取組の体制が決まっており、方針・目標・計画を策定中である)	取組を実施し、定期的な取組状況の確認・評価を行い、問題があれば是正処置を行っている。代表者が取組状況全体を評価し、必要に応じて見直しを行っている(取組がPDCAのサイクルに乗っている)	環境活動レポートを作成し、公表している(外部に実施状況・結果を公表している)	質	現状	財団法人地球環境戦略研究機関 持続性センター <a href="http://www.ea21.jp/">http://www.ea21.jp/</a>
9	エコアクション21を取得している。		エコアクション21を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	エコアクション21の取得に向けて、前向きに検討している。	一部の事業所でエコアクション21を取得している。	全社でエコアクション21を取得している。			財団法人地球環境戦略研究機関 持続性センター <a href="http://www.ea21.jp/">http://www.ea21.jp/</a>
11	グリーン経営認証を取得、あるいはそれに値する活動を実施している。	水頭	グリーン経営認証を取得する予定がない。	グリーン経営認証を取得予定はあるがまだ取得していない。	グリーン経営認証を取得しており、維持できている。	グリーン経営認証を取得しており、目標を達成できている。	質	現状	
10	グリーン経営認証を取得している。		グリーン経営認証を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	グリーン経営認証の取得に向けて、前向きに検討している。	一部の事業所でグリーン経営認証を取得している。	全社でグリーン経営認証を取得している。			交通エコロジー・モビリティ財団 ホームページ <a href="http://www.ecomo.or.jp/topix/nins hou%20pamphlet%2020070620.pdf">http://www.ecomo.or.jp/topix/nins hou%20pamphlet%2020070620.pdf</a>
12	ロジスティクス活動において、ゼロエミッション活動に取り組んでいる。	藤井	ゼロエミッションの活動をしていない(ゼロエミッションの取組、及び定義をしていない)	ゼロエミッションの活動はしているが一部に留まっている	ゼロエミッションの活動が継続的に展開している	ゼロエミッションの一次ステップの活動がほぼ終了し、次のステップアップを目指した展開が行われている。	質	現状	
11	物流・ロジスティクス活動に伴って発生する全ての廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。		物流・ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けた取り組みを行っていない。	物流・ロジスティクス活動に伴って発生する一部の廃棄物について、再資源化に向けた取り組みを実施している。	物流・ロジスティクス活動に伴って発生する全ての廃棄物について、再資源化に向けた取り組みを実施している。	左記活動に積極的に取り組み、一部事業所ではゼロエミッションを達成している。			・事例6 (リコーロジスティクス 2006年度環境報告書)
13	ロジスティクス分野の環境パフォーマンスを算定している。	武藤(事務局)	算定していない、または算定方法を知らない	データを集計中である	環境負荷総量を算定している	環境負荷総量を算出して、削減への取り組みを行っている	質	現状	・日通総研ロジスティクスレポート ・キンピール環境パフォーマンス算定基準・環境会計作成基準 ・東京都自動車環境管理指針
12	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。		自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を把握していない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目の一部は把握しているが、全て網羅できていない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を全て把握、整理できている。	左記に加え、その内容を関係部門へ周知している。			
13	輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。		輸配送に係る環境パフォーマンスの算定を行っていない、もしくは算定方法を知らない。	輸配送に係る環境パフォーマンスの算定に向けて、前向きに検討している。	輸配送に係る環境パフォーマンスの算定を行っている。	左記に加え、算定結果を活用して、PDCAサイクルに基づく改善活動に取り組んでいる。			
14	包装に係る環境パフォーマンスを算定している。		包装に係る環境パフォーマンスの算定を行っていない、もしくは算定方法を知らない。	包装に係る環境パフォーマンスの算定に向けて、前向きに検討している。	包装に係る環境パフォーマンスの算定を行っている。	左記に加え、算定結果を活用して、PDCAサイクルに基づく改善活動に取り組んでいる。			

番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等	
			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき		
14	グループ企業、取引先、業界団体(自主行動計画など)と共同で取り組んでいる	武藤 (事務局)	自社単独での取り組みであり、グループ企業や取引先、業界団体とは連携していない	グループ企業、取引先、業界団体と取り組みに関して検討しているが、まだ実施はしていない	グループ企業、取引先とも連携して共同で取り組んでいる	グループ企業、取引先と一体となって取り組み、かつ業界団体において自主行動計画を策定している				
15	グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体(自主行動計画など)と共同で取り組んでいる		自社単独での取り組みであり、グループ企業や取引先、業界団体と連携した取り組みは実施していない。	グループ企業と共同で取り組んでいるが、取引先や業界団体と連携した取り組みは実施していない。	グループ企業、及び一部取引先と共同で取り組んでいるが、業界団体とは連携した取り組みは実施していない。	グループ企業、及び多くの取引先と共同で取り組むとともに、業界団体の物流や環境に関する会合に積極的に参加し、情報交換を深めている。			・グリーン物流パートナーシップ会議 推進事業	
15	環境に配慮している企業を取引先として選定している(インセンティブを与えている)。	藤井	取引先企業選択の方針、基準が無い	取引先企業選択の方針、基準について企画、作成中である	取引先企業選択の方針、基準にもとづいて、選定している	取引先企業と情報交換を積極的に行い、業種選択の質の向上に努めている。	質	現状		
16	協力会社(備車先等)に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。		協力会社に対し、環境配慮のための育成、指導は行っていない。	協会会社に対する環境配慮のための育成、指導のための方針、計画等を作成中である。	一部の協力会社に対し、環境に係る方針、計画等に基づく育成・指導を実施している。	半数以上の協力会社に対し、環境に係る方針、計画等に基づく育成・指導を実施している。			・事例7 (ニチアス グリーン調達ガイドライン)	
16	物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷の軽減に向けた取り組みを実施している。	武藤 (事務局)	取り組みを考えていない	取り組みを検討中だが、まだ実施には至っていない	取り組みを実施しているが、周辺住民への浸透・理解がまだ十分にされていない	物流拠点が中心となり、周辺住民とともに実施しており、広く浸透・理解されている	質	現状		
17	物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷(騒音、振動、ゴミ等)の軽減に向けた取り組みを実施している。		物流拠点の周辺住民を意識した取り組みは、特に実施していない。	敷地外の清掃活動等は行っているが、周辺住民とコミュニケーションを図ったことはない。	周辺住民へのヒアリング等を実施したことはあるが、継続的な活動には至っていない。	物流拠点の周辺住民と定期的にコミュニケーションを図り、環境負荷低減に努めている。			・事例8 (リコーロジスティクス 2006年度環境報告書)	
7	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。	矢野	環境に対する取り組みをまとめた環境報告書や環境レポート等を作成していない	環境報告書や環境レポート等を作成しているが、ロジスティクス分野に関する記載が全くない	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野に関する記載を行っているが、環境負荷に関する定量的な記載は行っていない	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野での環境負荷について、定量的な記載を行っている。	質	現状	・NECロジスティクス 2006年度環境報告書 ・リコー 2006年度環境報告書 ・日本通運 2006年度環境報告書	
18	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。		環境に対する取り組みをまとめた環境報告書や環境レポート等を作成していない。	環境報告書や環境レポート等を作成しているが、ロジスティクス分野に関する記載は全くない。	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野に関する記載を行っているが、環境負荷に関する定量的な記載は行っていない。	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野での環境負荷について、定量的な記載を行っている。			・環境報告ガイドライン2007年版(環境省) ・事例4(日本通運 2007年度環境報告書)	
	その他									
②公害の防止・軽減	18	大気汚染の防止、軽減の施策を実施している	水頭	行っていない。	行っているが、前年より悪化した。	行っており、現状維持できている。	行っており、前年より向上した。	質	現状	
	19	輸送機関(トラック、船舶等)の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。		輸送機関の大気汚染について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	輸送機関の大気汚染の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。			
	17	騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。	水頭	行っていない。	行っているが、前年より悪化した。	行っており、現状維持できている。	行っており、前年より向上した。	質	現状	
	20	騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。		騒音・振動について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	騒音・振動の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。			
	19	水質汚濁防止・軽減の施策を実施している。	水頭	行っていない。	行っているが、前年より悪化した。	行っており、現状維持できている。	行っており、前年より向上した。	質	現状	
	21	水質汚濁の防止・軽減の施策を実施している。		水質汚濁について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	水質汚濁の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。			
	その他									

	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等		
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき			
1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制	①製品開発	20 20	輸送効率向上と包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。	栗原 (事務局)	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発は実施していない	輸送効率向上のみ、もしくは包装資材削減のみの視点で製品開発が行われている。	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発が実施されているが、開発・設計部門単独であり、物流部門を巻き込んだ検討はほとんど行われていない。	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発が実施されており、物流部門も積極的に改善提案している。	質	現状	・ソニー 液晶テレビの事例(2006年度CSRレポート)	
					輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発は実施していない。	輸送効率向上のみ、もしくは包装資材削減のみの視点で製品開発が行われている。	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発が実施されているが、開発・設計部門単独であり、物流部門を巻き込んだ検討はほとんど行われていない。	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発が実施されており、物流部門も積極的に改善提案している。			・事例8(ソニー 2006年度CSRレポート)	
		21 21	物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。	栗原 (事務局)	製品評価を実施していない	製品評価は実施しているが、製品アセスメントガイドラインやマニュアルに、物流に関する記載がない。	一部の製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。	すべての製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。		質	現状	・家電製品 製品アセスメントマニュアル概要版(財団法人 家電製品協会)
					製品評価を実施していない。	製品評価は実施しているが、製品アセスメントガイドラインやマニュアルに、物流に関する記載がない。	一部の製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。	すべての製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。				・事例9(富士フィルム ホームページ) ・家電製品 製品アセスメントマニュアル概要版(財団法人 家電製品協会)
			その他									
	②生産体制	22 22	積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。	栗原 (事務局)	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といった検討は行っていない。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、生産部門へ提案を行っているが、実現に至っていない	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、生産部門と調整を行い、一部の工場で生産体制の見直しが図られている。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、定期的に生産部門と調整を行い、最適な生産体制の構築をはかっている。	質	現状	・パナソニックモバイルコミュニケーションズの事例(マンスリー貨物2007年4月号より)	
					生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といった検討は行っていない。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、生産部門へ提案を行っているが、実現に至っていない	左記提案を生産部門に受け入れてもらい、一部の工場で生産体制の見直しが図られている。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、定期的に生産部門と調整を行い、最適な生産体制の構築をはかっている。			・事例10(パナソニックモバイルコミュニケーションズの事例(マンスリー貨物2007年4月号より))	
				その他								
	1.3 商取引の適正化	①ロットの適正化	23 23	取引先と調整し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。	栗原 (事務局)	取引先、もしくは自社営業部門の要求どおりの取引単位で物流を実施しており、取引基準の設定についての提案すら行ったことがない	自社営業部門に対し、取引基準の設定提案を行っているが、営業部門に受け入れてもらえない。	取引先に対し、自社営業部門とともに取引基準設定の提案を行っているが、取引先に受け入れてもらえない	取引先に対し、自社営業部門とともに取引基準設定の提案を行い、一部取引先に受け入れてもらい、実施している	質	現状	
						取引先、もしくは自社営業部門の要求どおりの取引単位で物流を実施しており、取引基準の設定についての提案すら行ったことがない。	自社営業部門、取引先に対し、取引基準の設定提案を行っているが、受け入れてもらえない。	左記提案を、一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記提案を半数以上の取引先に受け入れてもらい、実施している。	質	あるべき	・取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書(JILS)
24 24			取引先にインセンティブを提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。	栗原 (事務局)	取引先、もしくは自社営業部門に対して、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行なったことがない。	自社営業部門に対し、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行っているが、営業部門に受け入れてもらえない。	取引先に対し、自社営業部門とともにロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行っているが、取引先に受け入れてもらえない	取引先に対し、自社営業部門とともにロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行い、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。		質	現状	
					取引先はおろか、自社営業部門に対しても、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行なったことがない。	自社営業部門、取引先に対し、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行っているが、受け入れてもらえない。	左記提案を、一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記提案を半数以上の取引先に受け入れてもらい、実施している。		質	あるべき	・取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書(JILS)
			その他									
②頻度・時間の適正化		25 25	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。	堀口	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施していない。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を提案している。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を一部実施している。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。	質	あるべき		
				取引先はおろか、自社営業部門に対しても、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を行なったことがない。	自社営業部門、取引先に対し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を行っているが、受け入れてもらえない。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記提案を半数以上の取引先に受け入れてもらい、実施している。			・J&J 2007年度物流合理化賞受賞事例		

	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等		
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき			
	26	26	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。	堀口	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化は実施していない。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化を提案している。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより一部平準化している。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。	質	あるべき	・J&J 2007年度物流合理化賞受賞事例	
					取引先はおろか、自社営業部門に対しても、輸送量のピーク期間を移動させる提案を行っていない。	自社営業部門、取引先に対し、輸送量のピーク期間を移動させる提案を行っているが、受け入れてもらえない。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記提案を半数以上の取引先に受け入れてもらい、実施している。				
	27	27	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。	堀口	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間は実施していない。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間の提案している。	一部分、入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。	質	あるべき		
					貨物車の待機時間に対し、まったく留意しておらず、入出荷時間の定刻化等の対策を実施したことがない。	自社でコントロールできる時間は定刻化により待機時間を短縮しているが、取引先に関わる部分の取り組みは行っていない。	一部取引先に対しては、入出荷時間の定刻化により、待機時間短縮を実現している。	半数以上の取引先に対して、入出荷時間の定刻化により、待機時間短縮を実現している。				
			その他									
③返品・回収の適正化	28	28	返品物流費を有償化し、返品を抑制している。	小松	返品物流費が顧客(代理店・販売店)負担になっていない	2~3割の顧客には負担してもらっている	6~7割の顧客に負担してもらっている	約9割の顧客に負担してもらい、抑制効果が出ている				
	29	29	取引先との調整により、納品条件の適正化や遵守により、返品を抑制している。	小松	取引先との調整による返品抑制はほとんどできていない	調整を試みているが抑制効果はまだ出ていない	6~7割の取引先と返品抑制の契約ができています	約9割の取引先と契約ができて返品抑制になっている				
	28	28	物流の無駄の大きな要因となっている、瑕疵のない製商品の返品について、抑制策として返品物流費の有償化や売買契約の見直しなど、具体的な対応ができています。	小松	販売最優先体質の為、返品抑制対策は具体化できていない。	返品悪については各部署で理解しているが、具体的改善策に取り組み、まず社内から返品削減に関して意識改革を推進する部署がない。	販売先に対し返品物流費の有償化を交渉したり、売買契約に返品抑制のリベート条件を盛り込んだりして、徐々に返品抑制効果が出始めている。	営業の押し込み販売体質も改められ、販売促進策と同時に適正数量の製品導入を図り、得意先との売買契約で返品抑制条件も盛り込んだので、返品率は減少傾向か前年より悪化はしていない。	質	あるべき		
			返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約の見直し等の施策を実施している。		販売最優先体質のため、返品抑制対策がまったく実施できていない。	返品悪については各部署で理解しているが、具体的改善策に取り組み、まず社内から返品削減に関して意識改革を推進する部署がない。	一部販売先に対し、返品物流費の有償化の交渉や、売買契約に返品抑制のリベート条件を盛り込むことにより、徐々に返品抑制効果が出始めている。	営業の押し込み販売体質も改められ、半数以上の販売先に対し、販売促進策と同時に適正数量の商品導入を図り、得意先との売買契約で返品抑制条件も盛り込むことで、返品率が向上している。				
			その他									
1.4 ネットワーク設計	①立地戦略	30	30	環境負荷を考慮に入れて、物流拠点を配置している。	水頭	環境負荷を考慮にいれた配置をしていない。	配置する計画は、あるが実現していない。	環境負荷を考慮にいれた配置している。	配置しており、さらに改善計画がある。	質	現状	
						物流拠点配置の検討の際には、コストや立地条件のみが検討項目となっており、環境負荷については特に考慮していない。	物量や配送距離、(入)出荷トラックの積載率を確認し、環境負荷が少なくなる視点での拠点配置の検討は行っていない。	定期的	物量や配送距離、(入)出荷トラックの積載率を確認し、環境負荷が少なくなる拠点配置の検討、見直しを定期的に行い、実現できている。			
				その他								
	②モーダルシフトの推進	31	31	輸送に鉄道を利用している。	藤井	鉄道利用の検討対象を把握していない	鉄道利用の検討対象は把握しているが詳細検討に至っていない	鉄道利用の判断基準があり、それに則って利用している。	判断基準はもとより、利用可能性の模索を継続的に展開している。	質	現状	・モーダルシフト推進チェックシート・資料集(JILS) ・CO2委員会 モーダルシフトWG
						鉄道を利用しておらず、検討対象も把握していない。	鉄道利用の検討を行っているが、諸条件があわず、現状では実施に至っていない	自部門での工夫や他部門との調整等により、鉄道利用を実施しているが、現在のところ、モーダルシフト化率は15%未満に留まっている。	自部門での工夫や他部門との調整等の結果、鉄道利用を実施し、現在のところ、モーダルシフト化率は15%以上となっている。			
		32	32	輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。	藤井	船舶も含めて検討対象を把握していない	鉄道、船舶利用の対象は把握しているが詳細検討に至っていない	鉄道、船舶利用の判断基準があり、それに則って利用している。	判断基準はもとより、利用可能性の模索を継続的に展開している。	質	現状	
					船舶を利用しておらず、検討対象も把握していない。	船舶利用の検討を行っているが、諸条件があわず、現状では実施に至っていない	自部門での工夫や他部門との調整等の結果、鉄道利用を実施しているが、現在のところ、モーダルシフト化率は15%未満に留まっている。	自部門での工夫や他部門との調整等により、鉄道利用を実施し、現在のところ、モーダルシフト化率は15%以上となっている。			・モーダルシフト推進チェックシート・資料集(JILS) ・CO2委員会 モーダルシフトWG	

	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき	
		その他								
1.5 情報化・標準化	①情報化の推進	33 33 需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。	藤井	需要予測の仕組みが無く、生産、在庫、輸送の削減に連動していない。	需要予測の仕組みは、無いが、無駄な個別に生産、在庫、輸送を削減している。	需要予測の仕組みを構築し、無駄な生産、在庫、輸送の削減に取り組んでいる。	需要予測の仕組みを構築し、さらに予測精度向上に積極的に取り組んでいる。	質	現状	
		実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している		実需要に即応した体制、又は需要予測の仕組みが機能せず、無駄な生産、在庫、輸送が削減できない。	部門単独の取り組みのため、部分最適に陥ってしまい、全社としての無駄な生産、在庫、輸送削減に至っていない。	関係部門との連携による全社的な実需要に即応した体制の構築、又は需要予測の仕組みの構築に向けての検討を進め、一部効果が出始めている。	関係部門との連携による全社的な実需要に即応した体制の構築、又は需要予測の仕組みの構築により、無駄な生産、在庫、輸送削減が実現できている。			
	34 34 標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。	菅田	配送伝票を電子化する環境(システム・ソフト・ハード)を持っていない。全て手作業である。	配送伝票を電子化する環境が整備されつつあるが、出荷物の3割未満程度しか実現できていない。	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物の3割以上～6割未満が実現している。(JTRNも導入検討は実施済、または部分的に導入されている)	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物の6割以上が実現できている。(JTRNも導入事例が存在する)	量	現状	JILS総研調査が必要	
	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。	菅田	配送伝票を電子化する環境(システム・ソフト・ハード)を持っておらず、全て手作業である。	配送伝票を電子化する環境が整備されつつあるが、出荷物の3割未満しか実現できていない。	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物の3割以上～6割未満が実現できている。(JTRNも導入検討は実施済、または部分的に導入されている)	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物の6割以上が実現できている。(JTRNも導入事例が存在する)				
	35 35 標準輸送ラベル(STARラベルなど)を使用している。	菅田	標準輸送ラベルに対する調査や検討も行われていない。存在も知らない。	標準輸送ラベルに対する調査や検討は行われているが、実施事例は無い。特に積極的な取組みは行っていない	標準輸送ラベルに対する調査検討も実施済みである。導入に向けての調査活動が開始され、素案もまとめられている。	標準輸送ラベルを積極的に活用する方針が打ち出され、導入事例も実現しつつある。業界をリードする啓蒙や働きかけ活動が行われている。	質	現状	JILS総研調査が必要	
標準輸送ラベル(STARラベルなど)を使用している。		標準輸送ラベルに対する調査や検討は行われていない、もしくは存在を知らない。	標準輸送ラベルに対する検討は行っているが、積極的に導入する方針はない。	標準輸送ラベル導入に向けて、具体的な検討を実施している。	標準輸送ラベルを積極的に活用する方針が打ち出され、一部で導入が実現している。					
		その他								
②スペック・サイズの標準化	36 36 ユニットロードシステムを導入している。	菅田	ユニットロードシステム(以下ULS)を考慮した活動を実施していない。またはULSそのものを知らない	ULSを調査検討し、可能な部分(対象)について導入を開始すべく、調査活動を開始している。または発荷主や着荷主へ提案し、働きかけようとしている。	ULSの可能な部分(対象範囲)についての調査は終了している。自社で可能な部分には採用済みであり、荷主にも働きかけ提案を実施中である。業界平均の採用率である。	自社で採用可能な部分(対象範囲)は実施済み。荷主にも積極的に提案し、業界平均を上回るULS採用率となっている。	質	現状	業界別のULS採用率を調査必要	
	ユニットロードシステム(以下ULS)を考慮した活動を実施していない、もしくはULSそのものを知らない。		ULSを調査検討し、自社で採用可能な部分(対象)について導入を開始すべく、具体的に進めている。	自社で可能な部分については採用済みであり、取引先にも提案を実施中である。	自社で採用可能な部分(対象範囲)は実施済みであり、取引先にも積極的に提案し、一部実施に至っている。					
		その他								
1.6 共同化	①共同輸配送の実施	37 37 輸配送回数の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。	小松	共同配送は実施していない	共同配送を検討中だが未実施	6～7割の物量を共同配送に載せている	約9割の物量を共同配送に載せている	量	あるべき	
				共同輸配送は実施していない	共同輸配送実施に向けて、前向きに検討している。	共同輸配送を実施し、3割未満の物量を共同輸配送で輸送している。	共同輸配送を実施し、3割以上の物量を共同輸配送で輸送している。			
		その他								
②保管施設の共同化	38 38 物流拠点を他社と共同で利用している。	菅田	物流拠点を共同化する意思が無い、または検討さえしていない。企業秘密が洩れるリスク大と感じ、消極的である。	物流拠点を共同化しようとの気持ちはあるが、何をどう進めて行けば良いか？判断せずに、積極的な調査・取組みはしていない	保管効率と在庫低減の為に、常に共同化を意識し、可能な範囲については(協調精神で)取組み開始している。業界平均的な取組み実績である。	業界をリードする共同化の取組み事例を豊富に実現し、保管効率と在庫低減を実現している。	質	あるべき	(業界別の)保管共同化実施状況を調査し、相対的な比較で実施度を判断する	
	物流拠点を他社と共同で利用しておらず、検討すら行っていない。		物流拠点の他社との共同利用に向けて、前向きな検討を実施している。	一部拠点において、他社との共同利用を開始している。	半数以上の拠点において、他社との共同利用を実施している。					

		番号		チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等
旧	新	出来ていない	遅れ気味で努力不足			まずまず出来ている	よく出来ている	費/量	現状/あるべき			
				その他								

活	2.1	①包装材の見直し	番号		チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等
			旧	新			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき	
			39	39	使用包装資材を薄肉化、軽量化(段ボール紙質の軽量化 他)している。	藤井	使用包装資材について薄肉化、軽量化には取り組んでいない。	使用包装資材を薄肉化、軽量化の対象は抽出していない	使用包装資材を薄肉化、軽量化の対象は抽出し取り組んでいる。	使用包装資材を薄肉化、軽量化の実績を上げながら、さらに軽量化の模索を継続的に取り組んでいる	質	現状	
			40	40	小箱包装を廃止して大箱にまとめている。	小松	特に対策はしていない	意識はしているが、販売ルートや輸送状況により実現困難	包装合理化により6~7割が改善できた	約9割が改善できている	量	現状	
			41	41	取引先の了解のもとで、包装を省略(無包装化:ラベル表示のみなど)している。	堀口	無包装は実施していない。	取引先の了解のもとで、包装を省略(無包装化:ラベル表示のみなど)している。50%未満。	取引先の了解のもとで、包装を省略(無包装化:ラベル表示のみなど)している。50%以上。	取引先の了解のもとで、包装を省略(無包装化:ラベル表示のみなど)している。	量	あるべき	
			42	42	取引先での包装資材の処理を考慮して、廃棄物となる包装資材はできるだけ省略している。	堀口	包装資材の省略は実施していない	取引先での包装資材の処理を考慮して、廃棄物となる包装資材はできるだけ省略している。50%未満。	取引先での包装資材の処理を考慮して、廃棄物となる包装資材はできるだけ省略している。50%以上	取引先での包装資材の処理を考慮して、廃棄物となる包装資材はできるだけ省略している。80%以上	量	あるべき	
			43	43	包装形態を簡素化(ハンガー輸送など)している。	堀口	包装形態を簡素化(ハンガー輸送など)していない。	包装形態を簡素化(ハンガー輸送など)している。50%未満。	包装形態を簡素化(ハンガー輸送など)している。50%以上	包装形態を簡素化(ハンガー輸送など)している。80%以上	量	あるべき	
			44	44	使用時だけでなく、未使用時も減容化(折りたたみ式通い箱の使用、組立式の包装資材など)している。	堀口	使用時だけでなく、未使用時も減容化(折りたたみ式通い箱の使用、組立式の包装資材など)していない。	使用時だけでなく、未使用時も減容化(折りたたみ式通い箱の使用、組立式の包装資材など)している。50%未満。	使用時だけでなく、未使用時も減容化(折りたたみ式通い箱の使用、組立式の包装資材など)している。50%以上	使用時だけでなく、未使用時も減容化(折りたたみ式通い箱の使用、組立式の包装資材など)している。80%以上	量	あるべき	
					その他								
		②リユース・リサイクル	45	45	運搬容器やパレットのリユースやリサイクルについて、全社、業界全体でシステム化している。	菅田	運搬容器やパレットに関するリユース・リサイクルのシステム化には取り組んでいない。システム化の必要性意識も低い。	リユース・リサイクルのシステム化については必要性を理解し、調査開始しているが、まだ初歩的なシステム構築の取組みさえ実施されていない。	リユース・リサイクルに取組むためのシステム化の取組み方針が決定され、初歩的な(エクセルによるハンド方式など)全社システムが構築運用されている。	本格的な全社システム化(DB化)が構築・運用されている。自社だけに止まらず、業界での取組みを活発化するために啓蒙活動や働きかけを活性化している。	質	あるべき	
			46	46	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。	水頭	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用していない。	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用率、15%以下	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用率、15%以上、40%以下	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用率、40%以上	量	現状	
					その他								
		③環境負荷の低い素材を使用	47	47	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。	菅田	慣習的に包装資材を使用しているだけであり、再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を選んでいる。再資源化も未実施。	環境負荷少ない包装資材が必要と理解はしている。素材調査・再資源化調査の方法は断片的で本格的には未実施。再資源化率も低く、4割未満である。	環境負荷少ない包装資材や再資源化の促進ポイントは何かを特定化している。コスト的にはほぼ同等範囲内で素材切替えや再資源化を促進しつつある。再資源化率は4割以上、7割未満である。	環境負荷少ない包装資材への切替えを積極的に推進している。コスト的に10%程度差であれば素材切替えを実施している。再資源化率は7割以上に到達している。	量	現状	石油系から紙系へ、木系から紙系への切替え、包装資材のリサイクル活動の活発度合い
			48	48	再生素材を原料とする包装資材を使用している(バージン素材を使用しない)。	菅田	包装資材に対する知識や理解が不足し、何らの考慮をしていない。	環境負荷少ない、再生素材を原料とする包装資材の検討を開始している。具体的な導入はまだ少なく、2割未満である。	再生素材を原料とする包装資材を使用するべく本格調査を開始している。具体的な導入比率は5割未満である。	積極的な会社方針が設定され、業界に先駆けて、再生素材を原料とする包装資材を導入している。導入比率は5割以上である。	量	現状	素材に、再生紙40%以上、再生Pet布・繊維、生分解プラスチックなどを使用。グリーン購入法に適合した資材の採用有無
			49	49	有害物質を含まない素材を使用している。	菅田	包装資材に有害物質が含まれているかもしれないということをもっと認識していない(意に介していない)。	有害物質とはどのようなものであるかの調査は納品業者説明を通じて大まかに理解している。しかし積極的な取組みには至っていない。	有害物質について、納品業者説明だけでなく、文献調査など実施し、素材を特定化できている。5割未満の素材が切替え済み。	有害物質についての深い理解があり、素材を完全に特定化している。5割以上の資材が切替え済み。	量	現状	石油系材料などに有害物質が添加された材料が使用されていないこと 例: 溶剤系粘着材など 薫じょうされた木製パレットの使用
					その他								
		④低公害機器の導入	50	50	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。	菅田	コスト優先のみの考え方が強く、自主的に省エネや低公害型の機器を導入する考え方や計画が無い(法規制を受け身的に対応しているのみ)	コスト優先の考え方が強いが、環境配慮時代への理解も芽生えていて、省エネや低公害型機器の自主的導入を2割未満程度実施している。	環境配慮への理解が進み、省エネや低公害型機器の導入が積極的に実施されるようになってきつつある。自主的導入5割未満程度	省エネや低公害型機器への配慮も強く、積極的に導入を図っている。5割以上導入されている。	量	現状	インバータ内蔵、低騒音、低排気ガス、省エネ型低消費電力/低燃費機器などの積極導入
							省エネ型、低公害型の包装用機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型、低公害型の包装用機器導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。			

番号 旧	番号 新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリ		参考情報等
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき	
51	51	オゾン層破壊につながらない冷媒を使用した冷凍コンテナを使用している。	青柳 (事務局)	冷凍コンテナの冷媒について、調査されていない。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の50%以上を占める。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の10%未満。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナを使用していない。	量	現状	・使用%についての根拠なし。要調査。 ・フロン類から、HFCを冷媒とするコンテナへの代替事例があるが、HFCの方が地球温暖化係数が高いとの説あり。 ・日本郵船は、2004年に、フロン類からHFC冷媒への代替完了とある(↓以下HP参照) <a href="http://www.nykline.co.jp/profile/csr/safe/pdf_2005/3_07.pdf">http://www.nykline.co.jp/profile/csr/safe/pdf_2005/3_07.pdf</a>
				冷凍コンテナで使用されている冷媒について、把握していない。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の50%以上を占める。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の10%未満。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナを使用していない。			
		その他								

活	2.2	①輸配計画の見直し	番号		チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等	
			旧	新			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき		
活	2.2	①輸配計画の見直し	52	52	現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。	藤井	輸送量、リードタイム等を勘案した環境負荷の少ない輸送手段の検討をしていない	不定期ではあるが、検討はしている。	定期的に検討している。	定期的に検討を行い、さらに、新しい輸送手段の情報入手と模索を継続的に展開している	質	現状		
			53	53	方面別輸送量に応じて、車種、車数、輸送ルート、輸送回数をきめ細かく見直し、輸送計画に反映させている。	水頭	見直していない。	1ヶ月に1回程度見直している。	1週間に1回程度見直している。	毎日見直している。	質	現状		
			54	54	輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。	堀口	輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分けていない。	毎年輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。	毎月輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。	毎日輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。	質	現状		
			55	55	輸送効率向上のために、定期的に納品条件見直し提案を実施し、改善をはかっている。	小松	輸送効率向上策は、特に検討していない	検討はしているが、取引先の了解が得られず実現していない	定期的に配車編成を見直し、効率化を図っている	毎月配車編成を見直し、納品条件の改善を了承してもらっている	質	あるべき		
					その他									
	2.2	②積載率の向上	56	56	求貨求車システムを導入している。	青柳(事務局)	求貨求車システムを全く利用していない。	イレギュラーな輸送が発生した時のみ利用し、積極的な活用はしていない。	恒常的に利用しているが、複数のシステムに登録するなど、積極的な活用はしていない。	複数のシステムに登録し、積極的に活用している。	質	現状		
			57	57	輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。	小松	混載や共同輸送は利用していない	検討はしているが、実現はしていない	小ロットの6~7割は混載や共同輸送で対応している	小ロットの約9割は混載や共同輸送で対応している	量	現状		
			58	58	得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている	小松	積載率を高める配慮はしていない	検討はしているが、実現はしていない	得意先配送の6~7割は共同配送により積載率を高めている	得意先配送の約9割は共同配送により積載率を高めている	量	あるべき		
			59	59	調達物流においてミルクラン方式を利用している。	水頭	利用していない。	利用しているが、15%未満。	利用しており、15%以上40%以下	利用しており40%以上。	量	現状		
			60	60	トラックの大型化・トレーラ化により、便数を削減している。	多々見	実施していない	検討中	一部実施	全体的に実施	質	現状		
			61	61	車両の積載効率向上のために、積載方法を工夫している。	狩谷								
					その他									
	2.2	③整備・点検・安全管理	62	62	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。	多々見	実施していない	指導中	不定期に実施	毎月実施	質	現状		
			63	63	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。	多々見	実施していない	指導中	不定期に実施	定期的に実施	質	現状		
			64	64	排気ガスの色を目視で確認している。	多々見	実施していない	指導中	不定期に実施	定期的に実施	質	現状		
			65	65	危険有害性物質の輸送に対する安全管理(イエローカードの携帯など)を徹底している。	多々見	実施していない	検討中	一部実施	全体的に実施	質	現状		
			66	66	荷崩れ・荷ずれ防止のため、荷物の重心の位置確認をしラッシングベルト等で固縛を徹底している。	堀口	荷崩れ・荷ずれ防止のため、荷物の重心の位置確認をしラッシングベルト等で固縛を徹底している。50%未満。	荷崩れ・荷ずれ防止のため、荷物の重心の位置確認をしラッシングベルト等で固縛を徹底している。50%以上。	荷崩れ・荷ずれ防止のため、荷物の重心の位置確認をしラッシングベルト等で固縛を徹底している。80%以上。	荷崩れ・荷ずれ防止のため、荷物の重心の位置確認をしラッシングベルト等で固縛を徹底している。	量	現状		
					その他									
	2.2	④エコドライブ	67	67	エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。	多々見	実施していない	検討中	一部実施	全体的に実施	質	現状		
			68	68	デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。	多々見	実施していない	検討中	一部実施	全体的に実施	質	現状		
	2.2	⑤低公害車両の導入	69	69	低公害車・クリーンエネルギー自動車等を導入している。	狩谷	全く導入していない。また検討もしていない。	導入を検討している。	効果を確認するため導入している。	自社のCO2削減計画に基づき計画的に導入している。	質	現状	低公害車とクリーンエネルギー車の区分を示す必要がありそう。排ガス触媒、LPG、CNG、ハイブリッド等	
						低公害車・クリーンエネルギー自動車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	低公害車・クリーンエネルギー自動車導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。					
70			70	最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。	狩谷	前倒しはしていない。		買い替えの時は前倒している。	買い替え時に係わらず積極的に前倒しで導入している。	質	現状	前倒しをするかしないかだけの差		

番号 旧	番号 新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリ		参考情報等
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき	
71	71	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。	青柳 (事務局)	導入の検討がされていない。	導入はされていないが、検討をすすめている。	一部で導入されている。	導入車両が全体の半数以上を占め、本格的に導入している。	質	現状	普及度合いは不明。要調査。
				エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。			
72	72	エコタイヤを導入している。	多々見	導入していない	検討中	一部導入	全体的に導入	質	現状	
				エコタイヤを導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エコタイヤ導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。			
73	73	バイオマス燃料を利用している。	狩谷	全く導入していない。また検討もしていない。	導入を検討している。	効果を確認するため導入している。	自社のCO2削減計画に基づき計画的に導入している。	質	現状	
				バイオマス燃料を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	バイオマス燃料導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。			
		その他								

活	2.3 荷役・保 管・流通 加工の見 直し	①機器 導入・運 用の工 夫	番号		チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリー		参考情報等	
			旧	新			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき		
			74	74	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している	渡辺	機器導入の検討を未だ行っていない	機器導入の検討を行なっているが、実施には至っていない	一部の現場で機器を導入している	よく出来ている	機器導入可能な現場では全て導入し、定期的な見直しを行なっている	質	現状	
							省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型物流機器、低公害型物流機器導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。				
			75	75	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置により、稼働時間、作業距離の短縮を実施している。	渡辺	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置の検討を未だ行っていない	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置の検討を行なっているが、実施には至っていない	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置を行い、稼働時間・作業距離の短縮を図っている	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置を行い、稼働時間・作業距離の短縮を図っている	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置を行い、移動時間・作業距離の短縮を図り、内容を定期的に見直している	質	現状	
			76	76	環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器を使用している	渡辺	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択の検討を行っていない	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を検討しているが、実施には至っていない	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を行なっている	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を行なっている	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を行ない、内容を定期的に見直している	質	現状	
					その他									
			77	77	物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウトを変更している。	渡辺	倉庫レイアウトの変更を未だ検討していない	倉庫レイアウトの変更を検討しているが、実施には至っていない	倉庫レイアウトの変更を実施している	倉庫レイアウトの変更を実施している	倉庫レイアウトの変更を実施して、定期的な見直しを行なっている	質	現状	
			78	78	入荷と出荷の車両が混雑・交錯しないような設計を行っている。	渡辺	入荷・出荷による混雑を考慮していない	入荷・出荷による混雑を考慮してパースの物理的若しくは時間的な分離を検討しているが実施には至っていない	入荷・出荷のバースを物理的若しくは時間的に分離している	入荷・出荷のバースを物理的若しくは時間的に分離しており、内容を定期的に見直している		質	現状	
			79	79	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドリング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。	狩谷	全く導入していない。また検討もしていない。	検討中、又は検討したが実施していない。	保冷車用のコンセントを設置している。	コンセントを設置し車両も全て改造完了。		質	現状	
							保冷車用のコンセントを設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	保冷車用コンセント設置に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。				
			80	80	積みおろしに伴う待ち時間のアイドリングを防止するため、ドライバー控室を設置している。	武藤(事務局)	控室を設置しておらず、ドライバーが自車内にいるため、アイドリングストップも完全ではない	控室は設置しているが、待機中のドライバーの利用率は100%ではなく、アイドリングストップも完全ではない	控室を設置しており、待機中のドライバーは100%利用している	控室を設置し、待機中のドライバーは100%利用している	控室を設置し、待機中のドライバーは100%利用している。かつ待ち時間を利用して他の施設に納品できるようにシステムを整えている			
					(案2)	武藤(事務局)	控室を設置しておらず、ドライバーが自車内にいるため、アイドリングストップも完全ではない	控室設置を検討中	控室は設置しているが、待機中のドライバーの利用率は100%ではなく、アイドリングストップも完全ではない	控室を設置し、待機中のドライバーは100%利用している	控室を設置し、待機中のドライバーは100%利用しているため、アイドリングストップは完全に実施されている	量	あるべき	東京都自動車環境管理指針
							ドライバー控室を設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	ドライバー控室設置に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。				
			81	81	空調、照明、電力設備に省エネ機器を導入している。	狩谷	検討をしたことがない。	検討中、又は検討したが実施していない。	コスト的に実施可能なものは完了している。	実施できるものは実施完了。		質	現状	
							空調、照明、電力設備に省エネ機器を導入しておらず、導入の検討すら行ったことがない。	空調、照明、電力設備に省エネ機器導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。				
			82	82	ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。	渡辺	保管効率を向上させる機器導入は一部に留まっている。	機器の導入を行なっているが、在庫の変動による定期的な見直しは行っていない	機器の導入を行なっており、在庫の変動による定期的な見直しを検討中である。	機器の導入を行なっており、在庫ABC分析を用いて定期的な見直しを行なっている。		質	現状	
			83	83	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロンやアンモニアガスを使用している。	狩谷			新しい設備を導入する際代替フロンを採用している。	新しい設備を導入する際ノンフロン冷媒を採用している。		質	現状	新規に設置する場合は、代替フロンがノンフロンしか選択の余地がない。また漏れ防止が大切ではないか。
					冷蔵・冷凍倉庫において、アンモニアガス等のノンフロン冷媒として使用している。		冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロン冷媒として使用しておらず、使用の検討も行ったことはない。	冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロン使用に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。				
			84	84	冷蔵・冷凍倉庫において、断熱性能を高める工夫をしている。	狩谷	検討をしたことがない。	検討中、又は検討したが実施していない。	コスト的に実施可能なものは完了している。	実施できるものは実施完了。		質	現状	
					その他									

	番号 旧   新	チェック項目	担当者	実施度合い				カテゴリ		参考情報等	
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	質/量	現状/あるべき		
③物量の平準化	85	85	入庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。	渡辺	平準化について未だ検討していない	単一部門としては取り組んでいるが、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請をしていない	単一部門としては取り組んでおり、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組むことを検討中である	単一部門としてだけでなく、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組んでいる	質	あるべき	
	86	86	荷役・保管・流通加工作業を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。	渡辺	平準化について未だ検討していない	単一部門としては取り組んでいるが、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請をしていない	単一部門としては取り組んでおり、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組むことを検討中である	単一部門としてだけでなく、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組んでいる	質	あるべき	
	87	87	無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。	渡辺	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握していない	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握しているが、定期的な処置を行っていない	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握しているが、棚卸前など、必要に応じて処置を行っている	在庫ABC分析を用いて、不動態在庫、不良在庫の削減に努め、定期的な処置を行っている	質	現状	
	88	88	物量変動を吸収するため、求庫システムを利用している。	小松	利用検討も利用実績もない	検討はしているが、まだ利用実績はない	6~7割程度は利用している	約9割程度は利用している	量	現状	
			その他								
④資材削減・変更	89	89	標準輸送ラベル(STARラベルなど)の利用や包装資材への直接印字により、ラベルの使用枚数を削減している。	菅田							
	90	90	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。	藤井	資材購入において、グリーン購入の判断基準を組み入れていない	グリーン購入の判断基準はあるが一部にしか展開されていない	グリーン購入の判断基準にもとづいて購入を展開している	最新のグリーン購入対象の更新を行い、積極的に展開を図っている	質	現状	
		その他									

## チェック項目No 1から21についての補足説明

### 1. チェック項目No 1

- ・荷主企業を中心に、企業の環境方針の中にロジスティクスを含んでいるケースはあまりない。  
⇒環境方針へのトップのコミットメントに特化（ロジを含んでいるかどうかは問わない）

### 2. チェック項目No 2

- ・「方針・活動が策定・実施」という表現が分かりにくい  
⇒「方針の策定」に整理

### 3. チェック項目No 3

- ⇒「よく出来ている」レベルの語句省略のため

### 4. チェック項目No 4

- ⇒チェック項目と同じ表現にするため

### 5. チェック項目No 5

- ⇒「グリーンロジスティクス推進」を強調

### 6. チェック項目No 7

- ⇒「周知、教育」という表現に統一

### 7. チェック項目No 8, 9, 10

- ・当初「●●●を取得、もしくはそれに値する活動」としていたが、値する活動の評価軸策定が困難
- ・チェック項目No 1、2、3、4、5、6、7、8、12、(13、14)などは、認証取得のキーとなる事項。「これらができていること＝値する活動」になるのではないかと  
⇒取得の有無だけにしてはどうか

### 8. チェック項目No 11

- ⇒「再資源化に向けた取り組み」とし、評価軸の中にゼロエミッションを記載

### 9. チェック項目No 12, 13, 14

- ⇒「環境パフォーマンス」を下記3つの設問に分類
  - No 12 自社が出している環境負荷の項目の把握有無
  - No 13 輸配送に係る環境Pの算定
  - No 14 包装に係る環境Pの算定
- ⇒13、14の評価軸の中に、「PDCAによる改善活動」を記載

**10. チェック項目No15**

⇒「グリーンロジスティクス推進」を強調

**11. チェック項目No16**

⇒「取引先の選定」→「協力会社の育成・指導」に変更

**12. チェック項目No17**

⇒環境負荷の中身を例示

⇒周辺住民とのコミュニケーションの有無の視点

**13. チェック項目No19、20、21**

「まずまずできている」・・・法令遵守の徹底

「よくできている」・・・自主基準やPDCAサイクルによる改善活動

・No19は「輸送機関」を強調

以 上

## 設置、導入型設問について

## 1. 基本的な構成

前回分科会での意見を踏まえ、下記構成を基本としている。

●	●●●●を導入している	●●●●を導入しておらず、 導入の検討も行ったことはない。	●●●●導入に向けて、 前向きに検討している。	左記の結果、一部事業 所で導入が行われて いる。	左記の結果、半数以 上の事業所で導入 が行われている。	
---	-------------	----------------------------------	----------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	--

## 2. 基本形適用型（9項目）

50	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型、低公害型の包装用機器導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	インバータ内蔵、低騒音、低排気ガス、省エネ型低消費電力／低燃費機器などの積極導入
69	低公害車・クリーンエネルギー自動車等を導入している。	低公害車・クリーンエネルギー自動車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	低公害車・クリーンエネルギー自動車導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	低公害車とクリーンエネルギー車の区分を示す必要がありそう。排ガス触媒、LPG、CNG、ハイブリッド等
71	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	・普及度合いは不明。要調査。

72	エコタイヤを導入している。	エコタイヤを導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エコタイヤ導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
73	バイオマス燃料を利用している。	バイオマス燃料を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	バイオマス燃料導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
74	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している	省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型物流機器、低公害型物流機器導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
79	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドリング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。	保冷車用のコンセントを設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	保冷車用コンセント設置に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
80	積みおろしに伴う待ち時間のアイドリングを防止するため、ドライバー控室を設置している。	ドライバー控室を設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	ドライバー控え室設置に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
81	空調、照明、電力設備に省エネ機器を導入している。	空調、照明、電力設備に省エネ機器を導入しておらず、導入の検討すら行ったことがない。	空調、照明、電力設備に省エネ機器導入に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	

### 3. 基本形非適用項目（2項目）

83	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロンやアンモニアガスを使用している。			新しい設備を導入する際代替フロンを採用している。	新しい設備を導入する際ノンフロン冷媒を採用している。	新規に設置する場合は、代替フロンかノンフロンしか選択の余地がない。また漏れ防止が大切ではないか。
83	冷蔵・冷凍倉庫において、アンモニアガス等のノンフロンを冷媒として使用している。	冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロンを冷媒として使用しておらず、使用の検討も行ったことはない。	冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロン使用に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
51	オゾン層破壊につながらない冷媒を使用した冷凍コンテナを使用している。	冷凍コンテナの冷媒について、調査されていない。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の50%以上を占める。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の10%未満。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナを使用していない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用%についての根拠なし。要調査。</li> <li>・フロン類から、HFCを冷媒とするコンテナへの代替事例あるが、HFCの方が地球温暖化係数が高いとの説あり。</li> <li>・日本郵船は、2004年に、フロン類からHFC冷媒への代替完了とある（↓以下HP参照） <a href="http://www.nykline.co.jp/profile/csr/safe/pdf_2005/3_07.pdf">http://www.nykline.co.jp/profile/csr/safe/pdf_2005/3_07.pdf</a></li> </ul>
51	オゾン層破壊につながらない冷媒を使用した冷凍コンテナを使用している。	冷凍コンテナで使用されている冷媒について、把握していない。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の50%以上を占める。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の10%未満。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナを使用していない。	

以上

## 参考情報について（修正案）

## 1. はじめに

参考情報については、資料1のとおり、「すべての項目に関して一通り掲載する」こととなった。しかしながら、項目によっては、参考情報が書きにくい、もしくは参考情報の量が少し多くなる等の問題が出てくるのが想定される。

## 2. 現状の記載方法

現時点で各担当者からあがってきた内容を整理すると以下のとおりとなる。

分類	記載例	特徴、留意点等
行政、団体 情報	<マニュアル型> ・トラック運送事業における グリーン経営認証マニュアル (P17~21)	・特になし (通常、ホームページ上で公開されていることから 探索可能)
	<調査報告書型> ・取引条件見直しによる物流の 環境負荷低減効果に関する調査 報告書 (JILS)	・広い意味では該当しているが、項目との紐付けと いう面では、全部読まないといけない。
企業事例	・事例1 (NECロジスティクス)	・社名公表の可否 ⇒公表する場合の当該企業への確認有無 ⇒公表しない場合、参考情報欄は小さいことから、 事例紹介そのものができず、“参考情報”にならない 可能性大
解説型 (キーワード 型)	・インバータ内蔵、低騒音、低 排気ガス、省エネ型低消費電力 ／低燃費機器などの積極導入	・行政、団体情報がないものに関しては、有効な記 載方法

## 3. 方向性

以下の2案が考えられる。

## 案1 チェックリスト内完結型

企業事例紹介は原則行わず、行政団体情報及び解説型でカバーする。

<留意点> すべてカバーできるかどうか。

## 案2 資料編での追記型

チェックリストの参考情報欄には、簡単なコメントのみ記載し、資料編（報告書？）で簡単な解説（図、または文 A4 半ページ程度）を記載する。

（企業事例については、仮名で簡単に紹介）

（案2-1）90項目すべてについて簡単に整理する。

(案2-2) 企業事例や調査報告書型、あるいは解説型で分量が多くなってしまふ項目のみ、作成する。

<留意点> 案2 (特に案2-1) の場合、作業負荷の問題有。

例 項目 25

「取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。」

分類	記載例
案1	取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書 (J I L S)
案2	<p>(参考情報欄) 事例● (資料編P●参照)</p> <p>(資料編 P●)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A社(メーカー)の事例</p> <p>(改善前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受注翌日納品</li> <li>・受注は毎時バッチ処理(短リードタイム対応のため)しかしながら、同一店舗から午前と午後に発注があっても荷物が分かれて届いてしまう。</li> <li>・1日の最後のバッチで大量処理(偏り)</li> </ul> <p>(改善後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業部門、得意先へ協力要請し、受注翌々日納品へリードタイムを1日伸ばし、オーダーの取りまとめを実施</li> <li>・その結果、30%出荷件数の削減と梱包資材の削減を実現</li> </ul> </div>

ただし、少人数検討会での検討状況や3月までの期間を考えると、以下のとおりとしてはどうか。

- ・まずは、「評価軸の検討⇔評価項目の見直し」
- ・参考情報については、行政、団体情報等でできるだけ網羅する。(含む 環境会議成果物)
- ・それでも埋らないものについては、残り時間を勘案して判断

以上

今後の進め方について（案）

1. **第3回少人数検討会（10月●日（ ））**：－（予定）
  - ・評価軸項目修正案の作成
  
2. **第9回分科会（11月9日（金））** 15：30－18：00（勉強会有の場合）
  - ・少人数検討会で作成した修正案の確認
  
3. **第4回少人数検討会（11月）**－場合によっては、第9回分科会前に開催
  - ・残り部分の修正案の作成
  
4. **第10回分科会（11月～12月）**
  - ・少人数検討会で作成した修正案の確認

以 上

**第2期ロジスティクス環境会議  
グリーンサプライチェーン推進委員会 2007年度活動スケジュール（案）**

## 1. 委員会開催

	開催日時	内容
第5回	2007年6月21日（木） 14：00～17：00	・勉強会 ・分科会活動
第6回	2007年10月 日	
第7回	2007年12月 日	・成果物案取りまとめ

## 2. 「取引条件」分科会開催

	開催日時	内容
第4回	2007年5月18日（金） 15：00～17：00	・ヒアリング結果報告 ・活動の方向性検討
第5回	2007年6月21日（木） 15：00～17：00	・ヒアリング結果報告
第6回	2007年8月7日（火） 15：00～17：00	・加工食品をモデルとした共同配送提案確認 ・アウトプットの大枠素案確認
第7回	2007年9月19日（水） 9：30～12：00	・シミュレーション結果報告 ・集約化の課題
第8回	2007年10月30日（火）	
第9回	2007年12月 日	

## 3. 「源流管理」分科会開催

	開催日時	内容
第4回	2007年4月12日（木） 16：00～18：00	・チェックリスト項目検討
第5回	2007年5月17日（木） 16：00～18：00	・チェックリスト項目検討
第6回	2007年6月21日（木） 15：00～17：00	・チェックリスト項目検討 ・評価軸検討
第7回	2007年8月8日（水） 15：00～17：00	・評価軸の項目に関する検討事項の確認
第8回	2007年9月21日（金） 16：00～18：00	・評価軸の検討
第9回	2007年11月9日（金） 15：30～18：00*	・評価軸の検討
第10回	2007年11月 日	
第11回	2007年12月 日	

\* 勉強会がない場合は、16：00～18：00

\* 原則として、委員会と同時開催とするが、日程調整できなかつた場合や、別途検討が必要な場合は、適宜分科会での開催を行う。

以上

チェックリストの構成（LEMSチェックリスト VS 6月21日分科会終了時 VS Ver0.5\_3対比表）

LEMSチェックリスト（111）	6月21日分科会終了時（90）	増減	Ver0.5_3時点（92）	増減
<b>1. 方針（46）</b> <u>1.1 全社的な取り組み（19）</u> ①環境意識の向上（17） ②公害の防止・軽減（2）	<b>1. 方針（38）</b> <u>1.1 全社的な取り組み（19）</u> ①グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備（16） ②公害の防止・軽減（3）	-8 ±0	<b>1. 方針（40）</b> <u>1.1 全社的な取り組み（21）</u> ①グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備（18） ②公害の防止・軽減（3）	+1
<u>1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制（6）</u> ①強度の変更（1） ②容積の変更（2） ③重量の変更（1） ④材質の変更（1） ⑤生産と物流の同期化（1）	<u>1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制（3）</u> ①製品開発（2） ②生産体制（1）	-3	<div style="border: 1px dashed black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>同左</p> </div>	
<u>1.3 商取引の適正化（9）</u> ①ロットの適正化（2） ②頻度・時間の適正化（4） ③返品・回収の適正化（3）	<u>1.3 商取引の適正化（7）</u> ①ロットの適正化（2） ②頻度・時間の適正化（3） ③返品・回収の適正化（2）	-2		
<u>1.4 ネットワーク設計（5）</u> ①立地戦略（3） ②モーダルシフトの推進（2）	<u>1.4 ネットワーク設計（3）</u> ①立地戦略（1） ②モーダルシフトの推進（2）	-2		
<u>1.5 情報化・標準化（5）</u> ①情報化の推進（1） ②データコンテンツの標準化（2） ③スペック・サイズの標準化（2）	<u>1.5 情報化・標準化（4）</u> ①情報化の推進（3） ②スペック・サイズの標準化（1）	-1		
<u>1.6 共同化（2）</u> ①共同輸配送の実施（1） ②保管施設の共同化（1）	<u>1.6 共同化（2）</u> ①共同輸配送の実施（1） ②保管施設の共同化（1）	±0		

LEMSチェックリスト (111)	6月21日分科会終了時 (90)	増減	Ver0.5_3時点 (92)	増減
<b>2. 活動 (65)</b> 2.1 包装の見直し (21) ①包装資材の廃止・スリム化 (7) ②リユース、リサイクル (6) ③環境負荷の低い素材を使用 (6) ④低公害機器の導入 (2)	<b>2. 活動 (52)</b> 2.1 包装の見直し (13) ①包装資材の廃止・スリム化 (6) ②リユース、リサイクル (2) ③環境負荷の低い素材を使用 (3) ④低公害機器の導入 (2)	-13 -8	<div style="border: 1px dashed black; width: 100px; height: 100px; margin: auto;">同左</div>	
2.2 輸配送の見直し (22) ①輸配送計画の見直し (6) ②積載率の向上 (5) ③整備・点検・安全管理 (2) ④エコドライブ (5) ⑤低公害車両の導入 (4)	2.2 輸配送の見直し (22) ①輸配送計画の見直し (4) ②積載率の向上 (6) ③整備・点検・安全管理 (5) ④エコドライブ (2) ⑤低公害車両の導入 (5)	±0		
2.3 荷役・保管・流通加工の見直し (22) ①機器導入・運用の工夫 (5) ②施設設計・レイアウト (11) ③物量の平準化 (3) ④資材削減・変更 (3)	2.3 荷役・保管・流通加工の見直し (17) ①機器導入・運用の工夫 (3) ②施設設計・レイアウト (8) ③物量の平準化 (4) ④資材削減・変更 (2)	-5		

\*増減は、LEMSチェックリストとの差異を意味

以上

第2期ロジスティクス環境会議  
グリーンサプライチェーン推進委員会 第7回源流管理分科会 議事録

I. 日 時：2007年8月8日（水） 15：00～17：05

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：13名

IV. 内 容：

- 1) 第6回分科会以降の経過と本日の進め方について
- 2) チェックリストについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、以下のとおり議事がすすめられた。

VI. 議 事

- 1) 第6回分科会以降の経過と本日の進め方について

事務局より、資料1に基づき、第6回分科会以降の経過について説明がなされた。

- 2) チェックリストについて

事務局より、資料2-1に基づき、現状のチェックリスト（Ver0.4\_1）について説明がなされた。続いて、資料2-2、2-3に基づき、本日が検討が必要な事項について説明が行われた後、以下の意見交換が行われた。

（詳細型/簡易型）

【主な意見】

委 員：回答する立場からすると、簡易型の方が回答しやすいと考える。

幹 事：現実的には、全ての項目をチェック項目72のように表現することはできないと思うが、チェック項目50となると少し長すぎる印象を持つ。チェック項目42ぐらいの分量が適当だと考える。

幹 事：このチェックリストを何のために作成するかといったことにもう一度立ち戻って考えるべきではないか。単に回答を収集したいということだけであれば、簡潔な表現がふさわしいが、他社と比較して自社の位置づけがどの程度か把握できるようにするとともに、「グリーンロジスティクス推進のためにこのような項目を実施しなければいけない」という気づきを与える簡易マニュアル的な使用を考えるのであれば、細かい文書にしないと、その目的を果たすツールにはならないと個人的に考える。

事務局：LEMSチェックリストでは、“実施している/していない”という確認のみであった。今回のチェックリストでは、ベンチマークとして活用できるようにするとともに、このチェックリストに基づいて対策を実施してもらうということが目的としてある。

委 員：このようなチェックリストでは、回答者によってバラつきがあるのは仕方がない。割り切りが必要である。

委 員：前回のLEMSチェックリストの回答率はどの程度だったか教えていただきたい。

事務局：800社ぐらいに調査票を送って、回収できたのが200社程度だったと思う。

幹 事：チェック項目42は平均45文字なので、その文字数のある程度の目安として作成してはど

うかと考える。

委員：文字数の目安としてはよいと思うが、チェック項目 42 を見ると、各レベルで全く同じ表現が続いている。これらをうまく省略することで、文字数削減につとめてはどうか。

事務局：よく使う方法として、「左にプラスして…」という記載方法で文字数を省略することがあり、検討したい。

幹事：チェック項目 3 は、レベル差がよく分かる表現であり、ここから文字を削除して 45 文字にすることは難しいと考える。

幹事：チェック項目 3 は、質的に分けられる項目なので、うまく作成できたが、質と量が両方混ざると設問として難しい。その場合は設問を分けることも検討してはどうかと考える。

#### 【決定事項】

- ・ 評価軸の意味及びレベル差が伝わるような記載を行う。
- ・ 文字数は、45 文字を一応の目安とするが、設問によって臨機応変に対応する。

（「よく出来ている」のレベルの確認）

#### 【主な意見】

委員：「よく出来ている」を“実現可能性があるレベル”にするほうが回答しやすい面はあるかもしれないが、理想に近いものを記載したほうがよいと個人的に考える。

委員：チェック項目 28 の“9 割の顧客が有償負担”というのは相当難しいと考える。

委員：業界ごとに商慣行も異なるため、一律にすることは難しいと考える。

事務局：取引条件見直しは困難であるが、例えば、顧客との打ち合わせの際に、「一般的にはこういった流れがあります」といった説明に利用いただけるように、あるべき姿を記載するのも一案ではないか。

事務局：設問によって、“あるべき姿に誘導したいもの”と“誘導しなくてもいいもの”と分かれることから、設問によって濃淡があってもいいのではないかと考える。

委員：設問によって、“啓発が必要な部分”と“実績を出さなければいけない部分”に分かれると思う。そのようなジャンルに分けることも一案ではないか。

幹事：チェックリストに欄を設けて、誘導が必要なものはチェックをつけてカテゴリー分けをしてはどうかと考える。

#### 【決定事項】

- ・ 誘導したい設問かどうかカテゴリー分けを行った上で、それに対応する評価軸を設ける。

（定量的評価の記載方法及び基準となる値の設定について）

委員：数値については、入れた方がよいものは入れるが、入れると逆に回答者が混乱するものについては数値を含めない形で進めてはどうか。

幹事：初回の調査では、数値表現は一切記載せず、逆に生の数値を書いてもらい、それらを集計することで、最終的に設問を作成することも一案ではないか。

委員：そもそも数値データを持ち合わせている企業の方が少ない。また、一言に〇%といっても、それが台数ベースなのか、金額ベースなのかによって変わってくることから、数値があるからといって必ずしも回答しやすいということにはならない。先ほど議論があったとおり、ただ回答してもらうのではなく、回答してもらうことで回答者に少し考えてもらうことが重要ではないか

委員：事務局案どおり、数値を設定する場合は、4 段階の中にすべてを網羅して記載するとともに、文書の中に入れ込む形がよいと考える。

事務局：客観的なデータがあるものはそれを用いるが、それが無いものも多い。正確性よりも、メンバーの感触として、ある程度現状を映しているような値であればそれを用いることで対応したい。また、どうしても値が必要なものについては、委員会メンバーを対象としたト

ライアルにより収集することも一案である。

**【決定事項】**

- ・ 評価軸に数値を設定する場合は、4段階の中にすべてを網羅して記載するとともに、文書の中に入れ込む形とする。
- ・ 本日の議論を受けて、項目を修正、整理した後、再度議論する

(チェック項目の改廃、及び項目名の変更について)

**【主な意見】**

幹 事：チェック項目の17、18、19については、前年より悪化といった表現ではなく、絶対評価にしたほうがよいと考える。

幹 事：法律を遵守して、環境負荷を減らしているといった設問の方がいいのではないかと考える。

委 員：ISOでは、法令遵守とともに前年度からの向上を求めており、この考え方を含めてもいいのではないかと考える。

幹 事：「行っており」を「法令遵守」といったことに変えてはどうか。

委 員：チェック項目28についていえば、そもそも返品を抑制する方法として有償化しかないわけではなく、営業の押し込み販売の抑制など売り方の部分が大きい。それらを設問として含めるべきではないかと考える。

事務局：ご指摘のとおりであり、チェック項目そのものを修正したい。

**【決定事項】**

- ・ チェック項目1、4、6については、修正案どおりに変更する。
- ・ チェック項目89にある、包装資材への直接印字については、小松委員、堀口委員に確認し、実態がなければ削除する。
- ・ チェック項目17、18、19については、次回分科会で検討することとする。
- ・ チェック項目28については、修正案を小松委員に作成いただく。

(導入、設置に関する設問の方向性について)

**【主な意見】**

委 員：“一部導入”、“全体的に導入”の判断が難しいのではないかと考える。

委 員：コストがかかるものであり、過半数以上を設置することも難しいものが大半である。

事務局：総台数ではなく、“一部事業所”、“半数以上の事業所”で区分するもの一案ではないかと考える。

委 員：“検討”という表現が多いが、区別すると①前向きな検討、②テーマとしてあげたが、実施できないといったことを確認する検討があるかと考える。それらを分ける必要はないのか教えていただきたい。

事務局：そこまでは区分しなくてもいいのではないかと考える。

幹 事：「導入を考えて、前向きに検討している」といった表現の方がよいかと思う。

**【決定事項】**

- ・ 導入、設置型設問については、総台数ではなく、設置している事業所の割合といった設問にする。
- ・ “検討”という表現については、“導入に向けて前向きに検討している”といった表現とする。

(参考情報等について)

**【主な意見】**

幹 事：項目ごとに、参考情報を一通り掲載できる形が望ましい。その際には、できるだけ行政系のマニュアル等を載せる方がよいのではないかと個人的に考える。社名を載せるかどうかはケースバイケースで判断すべきではないかと考える。

幹 事：包装資材、省資源、共同配送の面では、日本電線工業会のホームページでは、具体的な記

載があり、たいへん参考になると思う。

【決定事項】

- ・参考情報を一通り掲載する形で進める。

(その他)

委員：回答者によって、厳しくつける人、やさしくつける人とバラツキが起きるため、回答を事務局でチェックが必要ではないか。

事務局：優劣を見るものではないため、そこまではできない。また、回答する際には数名で検討してもらうことで、回答者によるバラツキを少なくするようにすることが一案だと考える。

3) 今後の進め方について

第8回分科会については以下のとおりで開催することとなった。

日時：9月21日(金)

勉強会；15時30分－16時

分科会；16時－18時

会場：JILS 会議室

なお、勉強会の講師については、水頭委員にお願いすることとなった。

また、本日の意見を受けて、方向性及び修正素案を作成するための少人数検討会を8月29日(水)に開催することとなった。メンバーについては、別途事務局から連絡することとなった。

4) その他について

事務局より、資料4-1に基づき、6月末時点での特定荷主、特定輸送事業者の指定状況及びCGLメンバー企業の該当数の報告がなされた後、資料4-2に基づき、CO2削減推進委員会の活動として実施される、定期報告書・計画書の収集・分析について説明が行われた。

VII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了した。

以上

# チェックリストNo1～5の関係

①全社 環境方針 ←トップのコミットメント

②物流・ロジスティクスに関わる方針

グリーンロジ推進（活動）

③推進体制

活動

④計画

⑤人材育成

生産

開発